



声楽界の頂点を極めたドイツのテノール

ウーヴェ・ハイルマン指揮

Conductor: Uwe Heilmann

Performed by Heilmann Orchestra
and
five soloists

ハイルマン・オーケストラと5人のソリスト

シンフォニーコンサート

2024年 7/27 (土)

開演：13：30
(開場：12：30)

神奈川県立音楽堂

(JR 桜木町駅 南改札西口、北改札西口から徒歩 10 分)

入場料 5,000 円

(全自由席、当日券あり、未就学児入場不可)

前売り券：チケットぴあ <https://t.pia.jp/>

○W.A. モーツァルト：ピアノ協奏曲第 23 番 イ長調 KV488
W.A.Mozart: Klavierkonzert Nr. 23 A-Dur KV488
(ピアノ：澤瀉雅子 Masako Omodaka)

○W.A. モーツァルト：ホルン協奏曲第 3 番 変ホ長調 KV447
W.A.Mozart: Horn Konzert Nr.3 Es-dur KV447
(ホルン：加治佑子 Yuko Kaji)

○J.S. バッハ 教会カンタータ BWV21
『私の心に憂い多かりき』より“ため息、涙、悩み、苦しみ”
J.S.Bach: Kantata “Ich hatte viel Bekümmernis“ BWV21
“Seufzer, Tränen, Kummer, Not”

○W.A. モーツァルト：『大ミサ曲 ハ短調』より KV427
“精霊によりて、処女マリアより”
W.A.Mozart: “Missa in e-moll (Große e-moll Messe)” KV427
“Et incarnatus est”

○W.A. モーツァルト：あなたに明かしたい、おお神よ KV418
W.A.Mozart: Vorrei spiegarvi, oh Dio! KV418
(ソプラノ：阿久津麻美 Mami Akutsu)

○ジョン・ラター：【古風な組曲】フルートと室内オーケストラのための
John Rutter: Suite Antique for flute and Chamber Orchestra
(フルート：古川仁美 Hitomi Furukawa)

○G.F. ヘンデル：オーボエ協奏曲第3番 ト短調 HWV287
G.F.Händel: Oboenkonzert Nr.3 g-moll. HWV287

○V. ベッリーニ：オーボエ協奏曲 変ホ長調
V.Bellini: Concerto in Mi b per oboe e archi
(オーボエ：江原泰子 Yasuko Ehara)

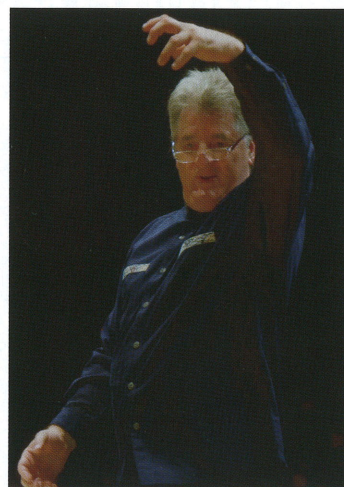
ウーヴェ・ハイルマン：(Uwe Heilmann) のプロフィール

1960年ドイツ生まれのテノール。20歳でモーツァルトのオペラ「魔笛」のタミーノ役でデビュー。25歳でザルツブルグ音楽祭に出演し、27歳でウィーン国立歌劇場、28歳で米メトロポリタン歌劇場、伊ミラノスカラ座に出演するなど声楽界トップの舞台で活躍した。D. パレンボイム、G. ショルティ、C. アバド、N. アーノンクール、S. チェリビダツケといった著名な指揮者と共演し、ウィーン・フィルハーモニー、ベルリン・フィルハーモニー 管弦楽団と共演した数多くのCDがある。1985年からエリザベート・シュヴァルツコップに師事。ソプラノの中村智子との結婚を機に日本に移住。沖縄県立芸術大学教授、鹿児島国際大学教授などを経て2024年4月から洗足学園音楽大学客員教授。指揮者として活動の幅を広げている。

主催：ハイルマン合唱団&オーケストラ お問い合わせ：TEL 070-4415-8140 メール tokyoheilmannchor@gmail.com

《ハイルマン・オーケストラのご紹介》

ハイルマン・オーケストラは、欧米の音楽界の頂点を極めて日本に移住したドイツのテノール、ウーヴェ・ハイルマン (Uwe Heilmann) =写真右=が「自分の中の音楽の魂を日本の音楽家に伝えたい」との思いを実現するため、2022年に結成されました。コンサートマスターにはハイルマンが鹿児島大学の教鞭をとっていた時からの盟友のバイオリニスト、長田新太郎が就任し、気鋭の演奏家が集まりました。東京の音楽愛好家や合唱ファンと一緒に結成したハイルマン合唱団と共に、翌23年4月に東京の第一生命ホールでJ.S. バッハの「マタイ受難曲」の演奏会を開いたのを皮切りに、「メサイア」「天地創造」などの超大作に取り組んでいます。合唱を中心とした音楽活動だけでなく、日本の演奏家の活躍の場を広げるために企画したのが今回のシンフォニーコンサートです。



《ソリストのプロフィール》

澤瀉雅子 Masako Omodaka (ピアノ)

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。国内外各地に於いて、ソリスト及び、声楽、合唱、室内楽の共演者として様々な演奏会に出演、レコーディングに参加。多くの新作初演にも携わっている。同時にソロリサイタルはじめ、自らの企画による演奏会シリーズを展開。また各種公演等のアシスタントピアニスト、音楽スタッフを務める。ピアノを田中瑤子、山本万里子の各氏に師事。伊・カリアリ音楽院マスタークラス他にてB.カニーノ氏の指導を受ける。三善晃プロデュース公演『第6回響き合うピアノ』デュオ部門合格。現在、国立音楽大学並びに同大学院伴奏助手。



加治佑子 Yuko Kaji (ホルン)

埼玉県立伊奈学園総合高等学校(芸術系音楽)を経て、2008年東京音楽大学卒。在学中より東京のオーケストラを中心にフリーランス奏者として演奏活動を開始。並行して後進の指導や、公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラムアーティストとして活動する等、音楽の普及にも取り組む。現在はクラシックに加え、ミュージカルやレコーディング、全国ライブツアーのサポートアーティストなど演奏活動は多岐に渡るほか、度々の渡欧やヨーロッパ諸国の歌劇場来日公演への参加など、活動を国外にも広げる。今まで曾根敦子、水野信行、西條貴人、五十畑勉、Christian-Friedrich Dallmann 各氏に師事。



阿久津麻美 Mami Akutsu (ソプラノ)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。(故)後藤千恵子、安居史恵子、(故)原田茂生、移川澄也、大島洋子、多田羅迪夫、ブルーノ・ルーフォ、(故)ルチアーノ・ベルタニョリオ、ウーヴェ・ハイルマン各氏に師事。ピアノの巨匠(故)イェルク・デームスに認められ国内外で数多く共演。2016年、銀座王子ホールでの共演は日本経済新聞文化面『文化往来』、クラシック音楽誌『音楽現代』において「巨匠デームスがソプラノ阿久津麻美に賞賛の辞を送るのは決して戯れなどではない。透明で澄み渡る歌声はリリコでレジェーロ、明暗移り変わるレチタティーボから情の深さ、人柄まで伝わってくる」等好評を得る。宗教曲ソリストや各地でのコンサートにて活躍中。



古川仁美 Hitomi Furukawa (フルート)

東京藝術大学卒業(1984年)、フリーランス奏者として幅広く活動したのち、2002年渡英。ウィリアム・ベネット、C・ベンソン、声楽をJ・ミラー女史に師事。04年英国王立音楽院修了。イギリス室内管弦楽団、ロンドン・シンフォニエッタ、ロンドン・オクターブ、アイスランド交響楽団等で演奏。2017年よりザ・フルート誌に『キホンの手前!』好評連載中。2022年パイパーズ誌に2号に渡りインタビュー記事『フルートから見た 西洋と日本の「ことば」と「からだ」』が掲載。日本五感療法協会 認定アロマ音叉®セラピスト&認定講師。



江原泰子 Yasuko Ehara (オーボエ)

東京藝術大学3年次終了後、渡独。ハイデルベルク・マンハイム音楽大学大学院卒業。ソロ、室内楽、オーケストラ、ミュージカルオーケストラなどで活動。渡辺克也氏、故似鳥健彦氏、故小島葉子氏、W.リーパーマン氏に師事。キ・モワ・オーボエアンサンブルメンバー。鎌倉の自宅でコラボレーションコンサートなどを企画し好評を得ている。ハイルマン氏と共演し深く感銘を受け今回のコンサートに参加。

